

とよなかIMAプロジェクト



目次

01 わたしのもやもや

02 本企画の考え方・目的

03 とよなかIMAプロジェクトとは？

04 実現したいこと

05 とよなかの未来

Table of Contents

とよなかは好きですか？



どうして自分
は豊中が
スキなん
だろう？

大きなショッピングモールわけではないし、
遊びも買い物も梅田まで出かけることが多い。
高校までまちに思い入れもなかった。

でも、とよなかにいる人たちは好きかも...？



それでも...

- 広場という名の道路になっていないか？
 - 公園は「あそぶ」ためだけの場所なのか？
- ➡ 無意識のうちに場所の目的を限定していないか

いろんなひとがまちに関わっているけど、
もっといるんじゃないか？

➡ きっかけが足りていないのではないか？

02

本企画の考え方・目的

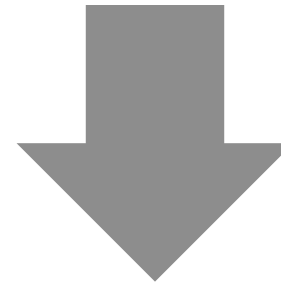
「TOKYO CROSSING」との出会い
道路を歩きながら家具を運ぶプロジェクトを知る。公共空間
の余白をつかってみんなが参加できる企画が作れるかも！

公共空間の活用×インタラクティブ

* 投影時のみ

【目的】

1. 見慣れた街の風景に変化をもたらす
2. 若い世代を地域とつなぐ

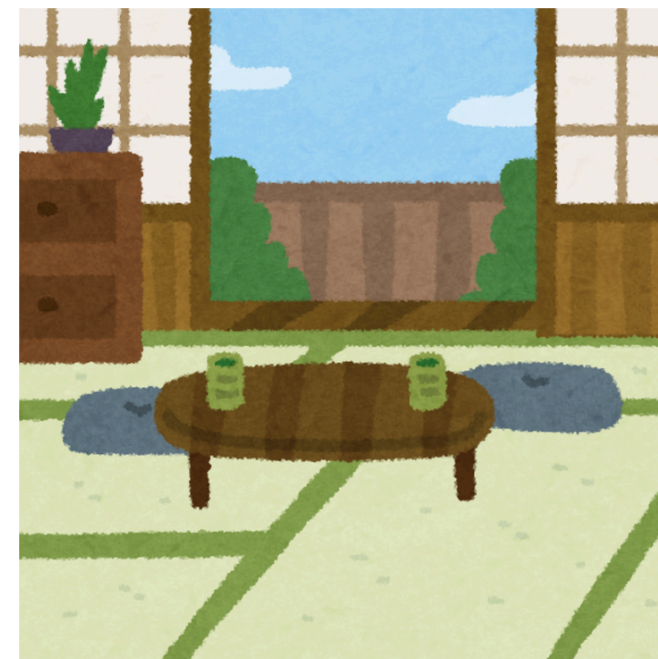


【効果】

公共空間のみならず都市空間をみんなで考えるきっかけになる。また同世代のまちづくり参加が増える。
地元の友だちとまた出会えるように。

とよなかIMAプロジェクト

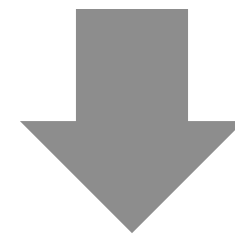
まちに居間のような空間をつかって、まちをより身近に感じようという活動。
共通認識のありそうな「おばあちゃん家の居間」を想像しながら、参加者と共に
場づくりをして居心地の良い空間を仮設しようとするもの。



仮設にこだわる理由

タクティカルアーバニズム・・・

都市の更新や改善を考えるにあたり、多大な財源と時間を投じる空間改変ではなく、低予算かつコミュニティベースの暫定的な空間活用を断続的に起こっていく考え方。



社会実験的な活動を積み重ねていくことで、
都市政策や都市計画へのアプローチが掴めるのではないか？

開催場所（候補）

★ 3つのポイント

- 市民の利用頻度が高いこと
- 公共性と開放性を備えていること
- 非日常的な体験を生み出せる余白があること

* 投影時のみ

* 投影時のみ

* 投影時のみ

（左から、豊中駅前人口広場・千里セルシー広場・服部緑地公園ちかくの森）

おばあちゃん家を再現？

だれでも身近に感じるであろう居間。
でもその居間の雰囲気は十人十色。



身近過ぎず、でも気兼ねなくゆっくりできる場所
＝ 「おばあちゃん家の居間」 ではないか？

「なつかしい」感じを再現するため、おばあちゃん家の居間を
解釈して世代を超えて安心と親しみを感じられる空間へ！

➡ 和モダン：畳・落ち着きのある色の家具や家電

必要になるもの

簡易で持ち運びやすく、空間のテーマにあったものを用意する。

調達方法	機材
購入	ブルーシート，ユニット畳
製作	こたつテーブル，こたつ布団
借用	座布団，本棚，クッション，テレビ， 電気ケトル，食器，ポータブル電源

基本的な計画

開催時期：2025年12月～2026年2月の3か月間

（2025年10月，11月はイベントの準備期間とする）

開催時間：隔週土曜日の日中3時間程度

開催頻度：同一箇所でも月2回（複数箇所でおこなう）

開催規模：畳12畳分を想定（400cm×600cm）

参加募集：事前申し込み・当日参加の両方

開催概要：

参加者は各々で雑貨を1つ持ってきて飾り付ける。その後、飲み物をのみなながらゲームをしたり本を読んだり基本的に自由に過ごすことができる。（参加申込が多い場合は時間を分けて開催する。）

イベントでの実施内容

イベントは、実施前から参加後までを一連の流れとして捉え、断続的かつ継続的な参加を促す仕組みを想定しておこないます。

《参加者が体験する内容》

- ① 雑貨の持ち込み募集
- ② 「おかえり」「ただいま」の挨拶
- ③ ほっとできるフリースドリンクの提供
- ④ ボードゲームをしてみんなでおしゃべり
- ⑤ テレビや本の設置
- ⑥ 参加後のアンケートや意見交換ボードへの記入

参加募集方法

イベント時の準備や当日の混乱を招かないように、イベントへの参加はGoogleフォームによる事前申し込みを基本とする。また、当日の開催状況によっては飛込での参加募集もおこなう。

《募集広告媒体》

① イベントチラシの作成・配架

公共施設を中心に配架していただき、募集を呼び掛ける

② LPページによる発信

企画趣旨等をわかりやすく理解できるように発信する。

③ Instagramによる発信

開催レポートのほか、募集の広告やお知らせを発信する。

参加後のアンケートの分析

参加後に実施するアンケートや意見交換ボードは、イベント終了後に分析します。イベントの目的が達成されているかを測るとともに、まちに対するイメージの移ろいなどを可視化します。

* 投影時のみ

みんなの「きっかけ」に

 「公園や広場にそんな使いかたがあったんだ」

 「優しいひとがたくさんいるんだ」

そんな気付きをみんなで共有できるイベントをつくっていきたい

豊中市内のあちこちでイベントを開催して、風景を変えていく
企画が終了しても、まちの人の意識変化を通じて
みんなで魅力を育んでいく「きっかけ」にする。

いつでも帰ってこれる温かいまち

まちに愛着を持つ人が増え、
いつでも戻ってこれる、待っている人がいる。
そんなあたたかい雰囲気をつくり出します。

